



入館無料  
(特別展は有料)



OCCM

申し込みと  
問い合わせ先

心のふるさと館ミュージアム担当  
[〒816-0934 曙町3-8-3]

☎(558)5000 ㊚(558)2207  
✉cocofuru@city.onojo.fukuoka.jp



### 心のふるさと館サポーター募集



事業などをサポートし、一緒に盛り上げてくれるサポーター(ボランティア)を募集しています。

#### ●対象者

- ◇心のふるさと館の事業および運営に関心を持ち、意欲的に活動に取り組むことができる人
- ◇16歳以上(未成年は保護者の同意が必要)

#### ●活動内容

- ◇展示解説(常設展示・企画展示)◇館外ガイド◇イベント運営の支援(ワークショップなど)◇昭和のくらしコーナー(体験道具の使用支援など)◇こども体験ギャラリー(体験道具の使用支援や子どもの見守りなど)◇ココふるショップ(商品の陳列・整理など)

#### ●入会方法 ◇FAX◇郵送◇総合案内(入会申込書に必要事項を記入)

※入会申込書は、総合案内で配布またはホームページからダウンロードできます。



### 大野城コレクション使用者募集

あなたが製作や収集した絵画、彫刻、造形、書、工芸、写真などを展示してみませんか。



#### ●展示場所 心のふるさと館M2階 大野城コレクション(展示ケース)

#### ●使用料 1日当たり980円

※営利目的の場合は、2.5倍となります。

#### ●展示可能日数 最長15日間

#### ●申請方法 総合案内(申請書に必要事項を記入)

※申請書提出の前に、問い合わせてください。

※申請書は、総合案内で配布またはホームページからダウンロードできます。



### 心のふるさと館

#### ●休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)

#### ●開館時間 午前9時~午後7時

しかし終戦直後の日本は食糧危機に加え、都市住宅の約3割が戦災で焼失、工場の操業率はわずか6%という状況下でした。そこで、日本政府はGHQに直談判して、デペンデントハウスの戸数を減らし期限を昭和23年(1948)3月まで延長しましたが、GHQから約95万点の家具や什器類の生産指令を受けました。それらの生産は日本の資材を使い、さらに米国人の生活様式をみたくする必要があったため、日本人スタッフ約60人が所属したGHQデザインブランチが建物や

「デペンデントハウス」  
昭和20年(1945)12月、GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)は日本政府に「昭和22年(1947)3月までに約2万戸のデペンデントハウス(占領軍将校家族用住宅)および住宅集区の建設」を口頭で命令しました。デペンデントハウスの起源はアメリカ西部開拓時代までさかのぼるもので、戦地や占領地であっても将校軍人が生活の原点である家族と暮らす場所が米軍基地内のデペンデントハウスと住宅集区でした。以降、地元から白木原ベースと呼ばれた板付基地春日原住宅地区の建設が始められました。

#### 家具などの設計や試作を担当しました。

こうして、日米折衷様式のアメリカ風外観を持つデペンデントハウスの設計ができ上がりました。商工省工業指導所が実施設計を行い、全国各地の工場をフル稼働させました。終戦直後の日本で、膨大かつ高いレベルの住宅建築と家具・什器類、家電製品の製造を約2年の短期間で実現させました。このことで工場は軍需から民需への生産転換と機械化による量産体制を確立させ、各産業が戦後復興するきっかけになりました。

あけてみよう! 歴史のとびら  
かつて、大野の町にアメリカがあった

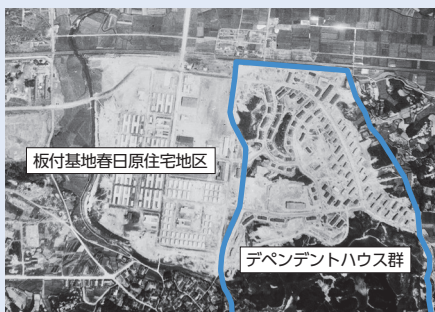
167



#### ●問い合わせ先

心のふるさと館文化財担当

☎(558)2206



完成直後の板付基地春日原住宅地区。白木原ベース通りには店がほとんどなく、田畑が広がっている。(国土地理院 1948年航空写真)